

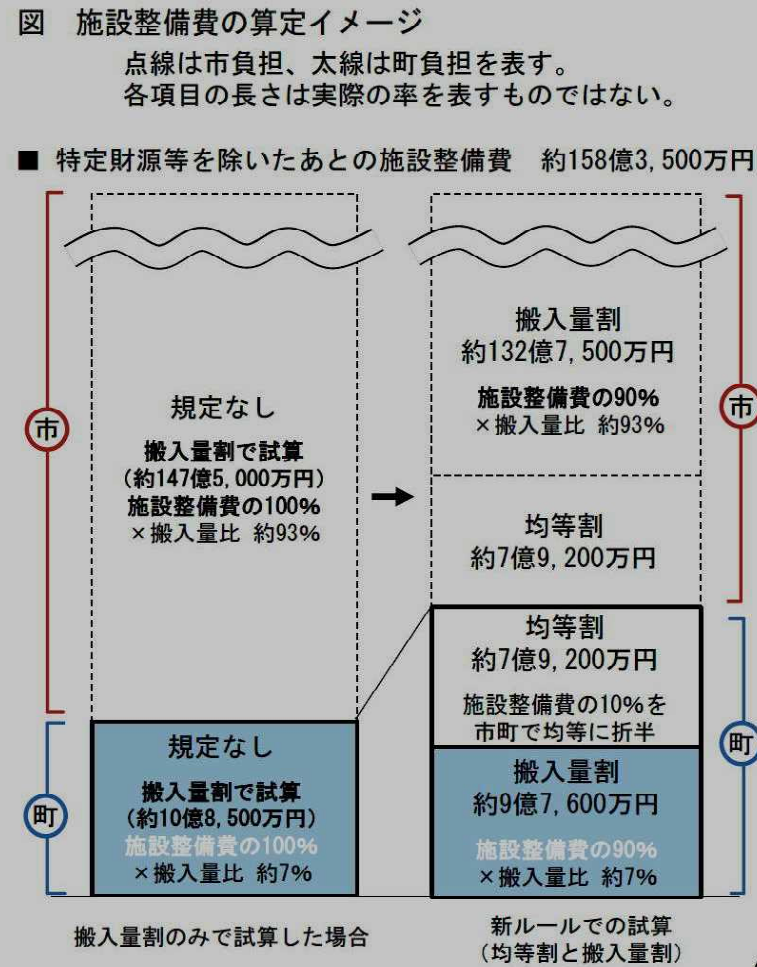
## ゴミ処理施設整備費の三川町負担金 住民1人あたり2倍の開き

新たなゴミ処理施設の三川町負担金について、市議会議員説明会が2日行われ、加藤鉦一議員が質問しました。

施設整備費の負担は、これまでごみ搬入割合だったものに、新たに10%の均等割を設け、残り90%を搬入量割とするものです。

### 住民1人当たりの負担額の比較は

問 10%を均等割にしたというのだが、人口規模が鶴岡市は約12



※11月2日の議員説明会資料から

### 3 施設整備費の負担金算定方法について

表 施設整備費の算定方法

現行ルール	新ルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>現行ルールでは、規定していない。</li> <li>大規模な投資事業で、市が市債発行した場合は、各年度の支出額（市債償還額）に対し、「各年度のごみ搬入量割合」で算定。</li> <li>町は後年、複数年度にわたって分割負担。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模投資事業とそれに附帯する事業が対象。</li> <li>施設整備費の10%を市町で等分して負担。</li> <li>施設整備費の残り90%を「整備計画時のごみ搬入量割合」で算定。</li> <li>町は、原則として市が支出した年度に、一括負担することで町債を発行できる。</li> </ul>

万人、三川町は約7500人とかなり違うので、人口割や財政力割は検討されなかったのか。

さらに住民1人あたりの負担額の比較について検討されたのか。

市民部長 均等割10%の考え方として、人口割や財政規模割という考え方もあったと思うが、今回は両市町で共同で利用するための、施設整備の受益負担ということなので、5%づつ折半ということにした。

1人あたり負担額については試算してないが、基本事項の承諾をいただいたことで、整理していきたい。

### 両市町の受益に基づく算定だ

問 今だされている資料で計算してみると、三川町の1人あたり負担額は約23万円、対して鶴岡市の場合約11万円、開きは2倍以上となっている。

これは人口規模が大きく違うのに、10%分を同額負担していることから生じているのではないか。

市民部長 均等割10%は、あくまで両市町の受益に基づく算定である。

事例は人口規模に大きな開きがない  
問 先行事例の千葉県山武郡市広域行政組合は、し尿処理と浄化槽汚泥であり、処理施設は10%の均等割だが、

他に15%の財政力割もあり、75%が利用率割となっており、委託ではなく一部事務組合の方式だ。

構成市町の人口規模に大きな開きはない。

事例の長野県湖周行政事務組合2市1町も人口規模に大きな開きはないが。

市民部長 鶴岡市と三川町との受委託の事例は全国的にもなく、参考事例もないことから、県を通じて環境省や関係団体から情報をいただき、参考にさせていただいた。

### 10%を人口割では

問 両市町の合意は尊重したいが、仮に10%を人口割にすると、三川町は1人あたり約14万円、鶴岡市は約12万円になって、より公平に近づくのではないか。

市民部長 基本的考え方は三川町から了解を得たものであるが、なお議員から言われたことも検討してみたい。

#### 【先行事例】均等割10%を構成自治体で等分している団体

- 山武郡市広域行政組合（千葉）
- 湖周行政事務組合（長野）
- 枚方京田辺環境施設組合（大阪・京都）
- 南部広域行政組合（沖縄）など

## 山旅あれこれ

### 四阿山(あずまやさん)で神様の導き

奥井良幸(旧温海町)



四阿山(長野県・群馬県)

今から200年程前の明治初期、日本を旅して歩いたイザベラ・バード(イギリス人)の旅行記にも記されているように、日本は国土の広さに比べても世界有数の山岳国と言われていたようである。

それに不思議な文化・風土を持った得体的にれない人々が住む国と、ヨーロッパ等の人々から認識されていたらしい。

この四阿山も何となく得体的にれない感じを与える読み方の山だと私は思っている。

四阿山、殆どの人は「よつあ」と読み「あずまや」とは読まない。私自身も疑いもなく、

百名山に挑戦をするようになるとは、そのように読むものとはばかり思っていた。

冬はスキー、夏は大学の運動部の合宿地として、私が若い頃には多くの若者達が憧れた菅平に行くと、正面にこの山を眺めることが出来る。

「あずまやさん」と呼ばれることになった由来は、山の形が庭園等にある東屋に似ているからとか、山から流



れ出る川が四方にあるからとか、諸説あるようだが私には判らない。私が初めて登ったのは群馬、長野の県境にある鳥居峠からであった。

登ったのは初冬の時期であったが、登り始めは葉がすつかり落ちて、快適な落ち葉を踏み締めての危険のない山道であった

しかし、途中から吹雪模様の雪道に変わり、登山道が見えなくなりました。

引き返そうか、無理にでも頂上に向かおうかと思案をして立ち止まっていたら、前方に狐の足跡らしきものが点々と上に向かって続いていった。

今思えば安全かどうか、又頂上に行けるか何の保障も無い動物の

足跡を辿って行ったのが不思議でならないが、その足跡を辿って行ったら無事頂上の社の前に着いたのである。

ところが社の前まで続いていった足跡が引き返した跡はないし、社には鍵がかかり中には入れなかったの、今思うと山の神様が付けた足跡としか考えられない気がしている。

私を無事に山頂まで連れて行ってくれた狐さん(神様)に感謝をしているが、今年はその木々の実が不作で動物達も冬を越せないと嘆いているようだ。

この山周辺にも熊さんを始め沢山の動物達が暮らしていると思うので、おとなしく眠りについて欲しい。

## 世界の国々

### ヨーロッパ

#### 核兵器禁止条約批准の動き

青山崇

ヨーロッパでは自国政府に核兵器禁止条約の署名を要求し、議会に批准を要求する動きが始まっている。



メルケル首相

ドイツ連邦議会では、メルケル首相が所属する与党の議員も参加する超党派の「核兵器禁止議員団」を25人で結成し、ある議員は「新たな核兵器軍拡競争が進む中、一緒に核兵器のない世界をめざす展望を開こう」と訴えた。この議員団がとくに注目されるのは、来年

9月の総選挙で政府が肯定的姿勢を見せるかもしれないからである。核兵器廃絶国際キャンペーン(ペン)ドイツを中心に、数団体が核兵器撤去に取り組んできた。世論調査では、92%が署名すべきとしている。

ベルギー政府は一貫して反対姿勢だったが、禁止条約がどう新たな勢いを造れるかを注視している。

ノルウェーは首都オスローをはじめ、33都市(約10%)が賛成している。



#### 適材適所は

菅首相の国会が始まった。触れられたくない学術会議については、所信表明演説には入っていないかった。しかし、任命を拒否された方々には、初めから指摘されているように、政府に逆らう意見を言った事があるという公約数があるのだ。つまり、政府の自由にならない者は排除するという彼らの手法で、憲法で保証されている「言論の自由」「学問の自由」を否定する大問題なのだ。

▲ここでも歴史を省みず、つじつまの合わない答弁を繰り返している。的を得た質問には、そんなことは考えていないと否定するが、憲法に違反する事実を認めないのだ。しかも、自分の考えを聞かれても後ろから来るメモで答えるのだけ。他の党のときだってそうだが、

19年5月に支持を決議したオスローのある市議は、「市や町は影響力を示すことができる」としている。



第2次世界大戦で破壊されたドイツの国会議事堂

共産党とのやり取りでは、答弁がでてこない・答えられないのだよ。

▲マー8年近くも官房長官をやってきてサ、アベが起こした大きな事件で、彼の身を護るために尽くしてきた適材適所の人。そんな彼を、小泉内閣時に大臣を務めた田中女子は、「生ごみの蓋」と称していたが、この人らしい見事な表現と妙に感心したものでしたネー。

▲菅首相「自助」と言う言葉がことのほかお好きのようだが、言葉の意味を分かっているんだろわかネー。自分がどう思おうかを聞かれても、後ろからのメモ待ちだったりしてサ。

▲アベさんは、答弁が不能な法務や五輪担当大臣を適材適所なんだからと変えなかったが、国民の為の政治が大丈夫なんだろうか。外交の場合などは、後ろから何本もの手は出ないからネー。(石川)